

■目的・方法：生活改善同盟会は、生活全般に亙る様々な領域の改善を目指して活動を行った。具体的活動を行うにあたっては、衣食住などの各領域を対象とする調査委員会を設けその改善の方針を決定し、機関誌とともに単行本の出版を通してその普及に努めている。このため、本稿では、生活改善同盟会の活動状況を明らかにする一端として、単行本の出版活動に注目し、その出版活動ならびに出版物からみた住宅改良に関する動向を概観する。

■結果：同盟会では「生活ノ改善」の遂行のため「雑誌図書其他ノ印刷物ヲ発行ス」ることが規約に記されている。印刷物としては、機関誌、単行本の他に宣伝のビラなどがあり、その印刷部数は、例えば大正九年から同十二年までの間に設立趣旨ならびに規約が一三万四千五百部、生活改善宣伝ビラ百三十万枚、単行本『住宅改善の方針』三千部というようになかなりの数であり、出版物を通しての普及活動に力を注いでいたことが窺われる。

大正九年から昭和八年までに出版された単行本は十七冊で、このうち、住宅改良に関する記述があるものは九冊である。これらの住宅改良の内容を見ていくと、昭和三年以前に出版された五冊は、全て住宅改善調査委員会の調査結果をまとめたもので、改良方針の手引き書的なものといえる。その中で大正十三年の『住宅家具の改善』は、項目数が最も多いことから、調査委員会の調査結果として最も整ったものといえる。一方、昭和三年以降の単行本の内容は、調査委員会の改良方針そのものではなく、現状を反映した住宅改良の意見を取り上げている。このことから、単行本における住宅改良に関する内容は昭和三年を境に調査委員会による共通方針から現実的な改良意見へと変化していたことが窺われる。